

平成26年度 事業報告書

ケアハウス大慈

1. 《平成26年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《ケア理念》

「手から手へ 忠恕（真心）を込めて」

3. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、ご自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心を込めて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

4. 《最終目標》

～いきいきのびのびスマイリー運動～

●みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔。

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します。)

- ・生きがい・やりがいを大切にします。
- ・自分らしさを大切にします。
- ・笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします。
- ・みんながしあわせになることを目指します。

5. 《中期計画》

- ①ケアハウス大慈の理念や方向性を周知する。
- ②ケアハウス大慈「らしさ」を共有し、みんなで作り上げていくという風土を作る。
- ③スタッフが福祉職ということやケアハウス大慈に勤めていることに誇りを持てる様にする。

6. 《部門別重点目標》

<ケア部門>

【大慈らしさの追及】

だいじなスタッフの育成

①考える介護の実施

A) 考える介護への環境整備

- ・マニュアルの見直しを実施（簡素化し実用性のあるものにする）
- ・マニュアルでは網羅できないゲスト一人一人のサポートにおいて統一方法を検討
- ・記録に基づいてサポートの検討ができるよう介護記録の取り方を見直す

ケアハウスでのマニュアルをすべて見直し更新する。サポートについては、一人一人のサポートをスタッフが同じ様に出来ているか確認するため、フロア会議で話し合い、確認するが、全ゲストのサポートの見直しは出来ていない。今後も継続して同じサービスが提供でき

るよう統一していく。介護記録の取り方については、5W1Hを基本に記入していく事を伝えていくが、全スタッフまで浸透することが出来なかった。根気よく指導していく事を目標に取り入れる。

B) 考える介護へのスタッフ育成

- ・アセスメント力の向上を目的にアセスメントシートを作成し活用
- ・その人の思いや色を反映し、人物像が浮かぶライフプランの作成
- ・事故報告書を基に各フロアで対策の検討を実施
- ・内部、外部研修を活用
- ・ご家族への対応、より良い関係づくりの構築
- ・指導者が適格に指導できるよう体制作りを行い、スタッフ一人一人の個性を把握する

アセスメントシートを作成し観察できているか確認を行うが、ばらつきがでた。全体を通して、観察力が一定でないため、同じ基準で観察できるように指導が必要であった、また、思いを載せたプランについては、作成することが出来るが、プランあつてのサービスが、サービスあつてのプランとなっているため、ライフプランの重要性をもっと伝えていくべきだった事が反省に残る。ご家族とより良い関係を築けている所が多く、日頃からコミュニケーションが良くとれていると思われる。

ご家族の対応が苦手なスタッフもいるため、全員がご家族に近況を報告出来る様、次年度も指導をして行く。考える、考えられるスタッフの育成を年間通して伝え、新人職員だけでなく、ベテランスタッフにも、なぜ必要なのか？なぜ行っているのか？なぜ？なぜ？なぜ？と考えるように指導していった。指導する側もきちんと根拠を説明する事で、理解するという事を念頭に伝えていった。

②サービス向上

A) サービス向上委員会の立ち上げ

- ・苦情・相談の内容から抽出しサービスの向上を図る

B) マナー向上

- ・マナー向上の為、始業時、終業時のチェックシートを作成し活用する

C) 介護技術向上

- ・介護技術勉強会（知識の取得・介護技術の取得・想像力の取得）開催

D) 居住環境整備(環境チェック)

- ・対象者を選定し研修を実施することで、統一基準にてチェックを実施

※①②実施した項目において改善状況を随時確認していく

サービス向上委員会を立ち上げ、現在のケアハウスの状況、今後、検討していかなければならない事、マナー面、介護技術などを毎月開催の会議で話し合った。

取り組みとして、マナー面からチェックシートを作成し、自己評価、他者評価などを踏まえて言葉使いに焦点を置いて取り組んだ。結果、意識は少しずつ高まっている。

介護技術については、理学療法士を先頭に、フロアでの小さな勉強会の開催、施設全体の勉強会開催、外部の研修に参加する事で、持ち上げない介護の勉強会を作り、資質向上に努めた、また殆どのスタッフが持ち上げない介護には興味津々であった。

次年度もゲスト・家族双方に負担のない介護を目標に取り組んでいきたい。居住環境については、確認するシステムは構築できなかったが、スタッフが訪室時に見るべき点としては伝えていく事は出来た。

<経営部門>

①在園率95%以上、在籍率97%を維持する

- A) ゲストの体調管理を行えるよう、他部署と連携する
- B) 入院時は、スムーズに退院となるよう病院と連携し情報の交換を行う (2W/1回)

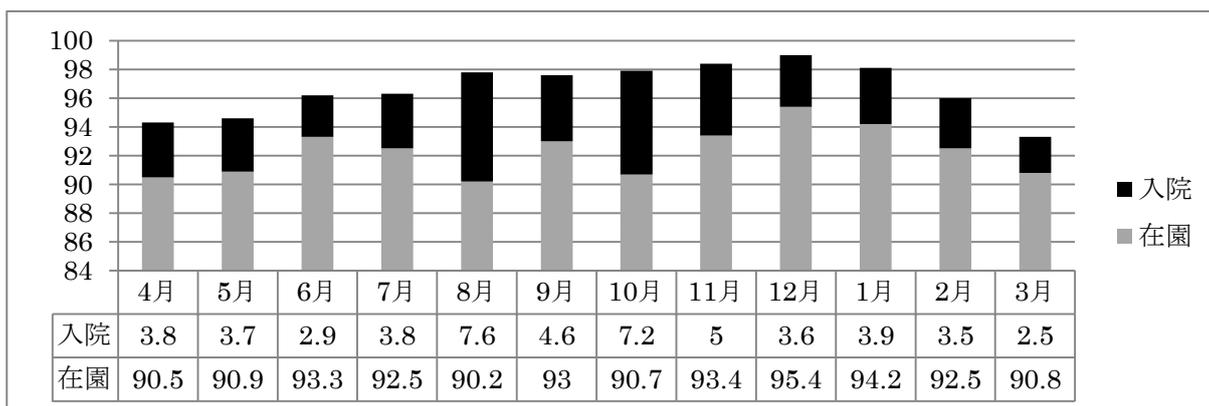
在籍率は97%であったが、在園率は92.2%にとどまり、目標を達成する事は出来なかった。空所が4床と入院が夏場から秋にかけて平均5名から7名の入院が続いたことが原因と思われる。入院時にはスムーズに退院ができるよう病院との連絡を密に行った、また秋以降は、早めの受診を行い、出来るだけ長期の入院にならない様に努めた。

②待機者の確保に努める (10名)

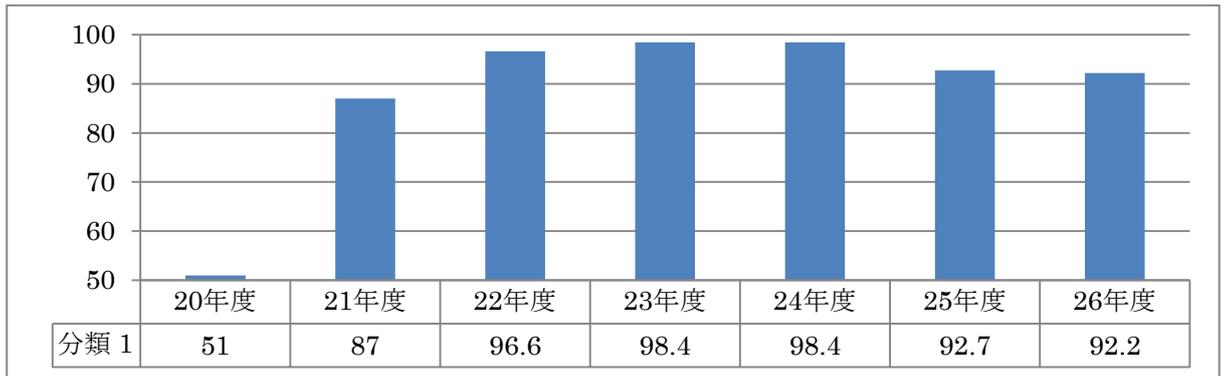
- A) 見学者の増加
 - ・常時見学の受け入れ体制を作っておく
 - ・ホームページを定期的に更新する
- B) 見学者から待機者へ
 - ・見学者、相談者に対し定期的にお困りでないか連絡を入れる
 - ・アピールポイントを探し、宣伝方法の検討をしていく
 - ・ケアハウス便りを発行し (2M/1回) 事業所に配布する
 - ・地域との交流の場所に参加する(年2回)

見学がいつでも出来る様に対応できるものを増員した。ホームページは担当を作り、新しくリニューアルし更新も定期的に行う事ができた。業者やご家族からは、更新をきちんと行っていますね、ゲストの近況など載せる事で、様子がわかってうれしいですと喜びの声を頂く事が出来た。見学者から待機者への目標は、なかなか申し込みをされている方からの入居というのが困難であり、新入居となる場合は、緊急に住む場所を探されている方や申し込みなしの見学で入居に繋がると言ったケースがほとんどであった。事業所宛にケアハウスお便りを作成し、去年は4回発行する事が出来た、ケアハウスでのイベントや空所のお知らせを行い、好評であったため、次年度も継続していく。

● 26年度月別充足率表



●年度別充足率推移



●介護度別年齢別等人数表

平成27年3月31日時点での在籍数
最高滞在期間6年8か月

要介護度	26年度				25年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	10	2	8		12	2	10	85.5
支援2	8	0	8		7	3	4	93.1
1	17	2	15	88.2	19	2	17	86.9
2	14	3	11	90	12	7	5	89.2
3	17	6	11	90.2	14	5	9	88.3
4	5	1	4	86.8	12	3	9	88.5
5	19	3	16	88.9	15	2	13	88.5
合計	90	17	73		95	26	69	
平均介護度		3	2.9	2.9		2.36	2.42	2.39
平均年齢		91.2	88.7	89		89.8	87.4	88.1
最高年齢		98	100			101	99	
最小年齢		81	71			80	70	

<栄養科>

自分だったらと考えられる厨房になる

A)おいしく、笑顔になれる食事の提供

- ・食材をきざむ事なく、常食・ソフト食・スルー食・ミキサー食（ゼリー食）すべての方が、何を食べているのかわかり、食べたいと思える食事の提供を継続する
- ・細かいゲストの要望に応えられるように、一人一人の好みを把握する
- ・厨房の業務を見直し時間を作ることで、副菜のニーズに応える

ゲストに提供している食事は普段、スルー食であるが、魚料理は、ソフト食という要望やゲストの好みに合わせて盛りつけ皿をかえる、野菜の切り方、軟らかさなどの意見を頂き出来るだけ希望に添えるよう努めた、その要望が厨房全体に周知できるよう調整を毎月の給食会議で伝えていき、確認を行った。笑顔になれる食事を提供する為に、味付け、好み、メニューの工夫など今後もゲストに聞き取りを行い、少しでもニーズが満たされるよう努力をして行く。

B)食事や食事行事について、チェリッシュ委員会や担当者会議にて、スタッフ同士の意見交換がスムーズに行えることで美味しい食事の提供を行う

- ・ゲストの満足度を調査し(年2回)、おいしい又は満足と答えて下さる方を全体の75%以上を目標とする

年2回の嗜好調査では、5月75%、11月86%のゲストが「満足している、ほぼ満足している」と答えて下さる結果となった。

C)栄養面を考えた食事の提供とサポート方法の提案

- ・食事のサポート方法や嚥下について研修会等に参加して学び、個々のゲストに合ったサポート方法を介護スタッフへ提案する
- ・よりスムーズに安心・安全に喉を通り、必要な栄養量を確保できる食事を提供する

年間を通して2回の嚥下に関する研修に参加することが出来たが、他職種に伝え、実施を試みるが大きな効果は見られなかったことと、時間が取れなかったため、一度のみの提案となった、業務整理を行い、現場にあがる時間を作っていく事が課題に残る。

●行事表

月	日	行事名	月	日	行事名
4月	6	花見弁当(6F)	10月	13	ティータイム(2F3F6F)
	13			21	屋台風バイキング
	14	ティータイム(2F3F6F)		23	3Fゲスト100歳記念パーティー
	18	バイキング(5F)		28	ティータイム(4F5F)
	22	ティータイム(4F5F)		30	バイキング(6F)
5月	5	こどもの日メニュー クレープづくり(6F)	11月	9	たこやきパーティー(6F)
	11	母の日メニュー		13	おやつ作り(かぼちゃパイ)
	18	バイキング(6F)		18	バイキング(2F)
				27	すなつくちいちゃん
6月	1.8	家族会バイキング	12月	17	クリスマス会(2F)
	9	ティータイム(2F3F6F)		18	クリスマス会(3F)
	15	父の日メニュー		21	クリスマス会(6F)
	18	バイキング(2F)		25	クリスマス行事食
	19	鉄板焼き(3F)		27	もちつき大会
	24	ティータイム(4F5F)			年越しそば
7月	1	ケアハウス6周年記念バイキング	1月	1	おせち
	7	七夕(行事食)		7	七草粥
	11	おやつ作り		20	鏡開き
	23	すなつくちいちゃん		27	バイキング(3F)
	25	流しそうめん(4F)			
	29	土用の丑(行事食) バイキング(3F)			
8月	12	ティータイム(2F3F6F)	2月	3	節分の日メニュー
	20	バイキング(4F)		9	ティータイム(2F3F6F)
	21	たこやきパーティー(3F)		18	バイキング(4F)
	26	ティータイム(4F5F)		24	ティータイム(4F5F)

	28	納涼祭 (5F)		25	すなっくちいちゃん
	30	5F ゲスト 100 歳記念パーティー		26	鍋パーティー (3F)
				27	バイキング (5F)
9月	8	十五夜 (行事食)	3月	3	ひな祭りメニュー
	15	敬老の日 (行事食)		10	バイキング (5F)
		秋祭り		11	桜餅作り (6F)
	17	おはぎ作り (2F)		12	おやつ作り (みたらしだんご)
	19	バイキング (5F)		17	にぎり寿司パーティー
	22	たこやきパーティー (5F)		28	家族会 (スイーツバイキング)
	23	芋ほり			
	26	おやつ作り (スイートポテト)			
	26	焼き芋パーティー			

<機能回復訓練>

①ケアの質向上

- A) 移乗・移動サポートは個別性を理解し、「持ち上げない・抱えないサポート」を土台として、ゲスト・スタッフ双方にとり、やさしいサポートとなるよう調整する
- ・現場に足を運び、移乗や移動方法の確認を行い書面でも残していく

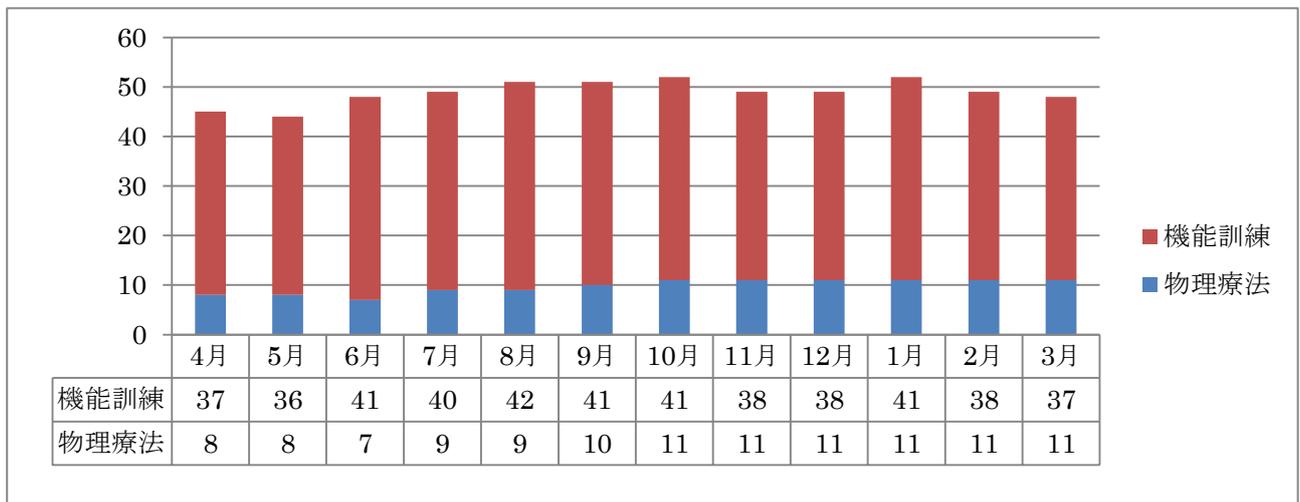
移乗・移動方法に関する修正・提案を全フロアにて行う事ができた。また、必要な場合は書面にてその方法を伝達し、全てのスタッフが同じサポート方法になるようにした。スタッフからのサポート方法の見直しの要請も増え、ゲスト・スタッフにより良いサポート方法を提供しようという意識が持てた。

②機能訓練の提供体制を充実

- A) スタッフ増員の為、機能訓練加算の15%アップ
- B) サポート方法・福祉用具の使用確認・生活環境での調整を現場と行っていく
- ・フロア会議に参加
 - ・各委員会で報告・確認を行う

機能訓練では40人を超える事ができ、物理療法実施者も含めると約50人のゲストが機能訓練を利用する事ができている。サポート方法等に関する取り組みでは、OJT形式での勉強会を実施。実際のケースを元に、より現場で生きる持ち上げないサポート方法を提案する事ができた。

<実績集計>



<看護部>

①口腔ケアの大切さを伝えていく

- A)食事の楽しさ・喜びの場所を作り、できる限り口から摂取し、肺炎を予防する
- ・口腔ケアの研修を行う（基本ケア・発語・発生練習、嚥下体操など）
 - ・歯科や他職種と連携しチームでケアを行う

ゲストの口腔ケアの状況の確認や食事摂取状況の確認作業を行い、口腔ケアの研修の準備に取り掛かっているが、研修を行うまでには至らなかった。食事摂取が困難になっているゲストに対しては、口腔内を確認、ケアを実施、フロアスタッフに指導していった。来年度は、歯科との連携を行い、研修まで行いたい。

②その人らしい生活を全スタッフと共に作る

- A)ゲストが望んでいることを把握し、不安が軽減できる看護をみつける
- ・関係職種との連携を強化する（カンファレンスにて情報交換を密に行う）
 - ・日頃からフロアとの関係づくりに努める（フロア会議参加など）
 - ・ゲストの希望を聴き取り医務で共有、必要であれば、他部署と情報交換を行う
- B)ご家族と信頼関係を築く
- ・来園時には、声をかけ日ごろの様子や現状を伝える
 - ・ご家族が不安に思うことを把握していく
 - ・ケアカンファレンスに参加し他職種と連携する

毎朝の申し送りにて、ゲストの健康状態について情報の交換・共有を行い、適宜、説明・指示し健康管理を行った。看護師間で毎日、カンファレンスを行い状態の把握に努めた。フロア会議に参加する事が出来ず、来年度は、積極的に参加していきたい。ご家族面会時は、出来る限り声をかけ、日頃の様子を積極的に伝えることで、信頼関係の確立に力を入れた。

[年間業務]

月	項目	内容
5月	ゲスト定期検診	胸部X線・採血
6月・7月	スタッフ定期検診（全職員）	胸部X線・採血・検尿・検便・身長・体重・聴力・視力 心電図、腰椎X線（CWのみ）
10月・11月	ゲスト・全スタッフ	インフルエンザ予防接種
1月	職員定期検診（CWのみ）	採血・腰椎X線・検尿・聴力

[往診・受診]

曜日	午前・午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	平山尚哉	歯科	毎週
火	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	隔週
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
土	午前	坪内淳一	内科	毎週

※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診

※外部主治医往診可能

7. 《行事等の実施内容・反省点》

○買い物ツアー

→各フロアの特徴に合わせて企画、毎月と隔月に行うフロアに分かれる。

○映画上映会

→フロアごとにシアタールームを活用した。

○シルバー体操

→毎週水曜日に講師の先生により実施、楽しく運動が出来ると好評である。

○フラワーセラピー

→参加ゲストが決っており、お誘いはするが、参加人数は一定である、内容の検討が必要である。

○ミュージックセラピー

→毎月、講師の先生により、季節に合った歌を歌ったり、体を動かしたり、ビデオで思い出しながら歌う等、毎回、飽きないように工夫して下さっており、好評である。

○絵手紙

→100円で参加できるというお手軽さであるが、参加人数が年間を通して少なかったのが反省点である。

○施設行事

月	行事名	内容
4月	花見 (全フロア)	加古川まで出かけるフロアや近場で楽しむフロア、花見ドライブを行うフロアなど、それぞれの雰囲気や活動量に合わせて企画実行するが、なかなか桜の見頃に計画が一致せず、満開をみられたゲストとそうでないゲストに分かれてしまった。
5月	ぷるぷるフルーチェ作り (2F)	牛乳を混ぜるだけのフルーチェ作りであるが、「何ができるの?」と嬉しそうに話しかけられ、「冷たくておいしいね」と皆さん笑顔で召し上がる。
	外食ツアー (3F)	事前にアンケートを取り、王将、すし官太へ出かけた。やはり外食は楽しい気分になり、食欲も進む様子であるが、予想以上にゆっくり食べられた為、時間が大幅にずれ計画通りにはいかなかった。
	淡路島ドライブ (4F)	ハイウェイオアシスにて昼食を摂る。普段はスルー食の方がご本人希望により、牛丼を食べられ完食されたのには、驚きと新しい発見であった。
	外食ツアー (5F)	餃子の王将と喫茶に出かける、王将では、餃子を「おいしいね」とゲスト同士が会話され、喫茶店では、流行りのスイーツを楽しまれ喜んで頂く事が出来る。
	わくわく楽しいクレープ作り (6F)	面会に来られているご家族にも手伝って頂き、和気あいあいとクレープ作りは進んでいった。
6月	焼そばパーティー (2F)	男性スタッフが焼そばを目の前で焼く事で、本格的に見えたのか、「なんだか、本格的ね、あなたがつくれるの?」など会話をしながら料理する、出来上がりの焼きそばを召し上がると「あら、美味しいじゃない」といつもと違う雰囲気と食事を味わうことが出来た。
	鉄板焼きパーティー (3F)	フロアで行ったが、最初は野菜ばかりいらないとの声もあったが、進むにつれ、「おいしいわ」と笑顔が見えた。

	たこやきパーティー (4F)	たこ焼きはいつも好評で、楽しいコミュニケーションの場所となる。普通食を食べられないゲストには、たことこんにやくをすって入れて焼く事で、おいしく召し上がって頂く事が出来た。
	茶話会 (5F)	スタッフのご家族がお茶の先生であり、来園、本格的なお茶会をして下さる。みなさん、一杯では物足りずお代りをされる方がほとんどであった。
	毎年恒例農業公園バーベキュー (6F)	毎年、恒例の為、楽しみに待たれているゲストが多く、前日から食事量を調整しておられる程である。普段、全量食べられないゲストも手づかみでおにぎりを食べられるなど、お肉も美味しそうに召し上がっておられた。今後も恒例行事として継続していきたい。
7月	みんなが大慈な納涼祭 (2F)	フロアにてドンパン節を踊り、チーム対抗で棒ひき、輪投げ、ボウリングを行い、体を動かしながら楽しむことが出来た。また、スタッフとゲストと一緒にスイカ割を行うことで大いに盛り上がりを見せた。
	茶話会 (3F)	和菓子を購入しゲストと一緒にまんじゅうを口にしながら茶話会を行った。普段、ゆっくりとお話しする時間が少ない為、良いコミュニケーションの機会となった。
	流しそうめん (4F)	本格的な雰囲気味わえるよう、本物の竹からそうめんが流れる様、企画した。「箸で掬える、掬えない」で、大変、盛り上がりを見せた企画となった。
	ひまわりととんかつツアー (5F)	ひまわりを見に行くが、とても暑い一日となり、ひまわりを楽しむどころではなかった。ランチのとんかつをメインに考えておられるゲストもあり、美味しかったと笑顔で頂く事が出来た。また帰りに三木市の「珈集」という専門店に寄り、お茶を飲んで帰ったが、お店の雰囲気もよく好評であった。
	七夕様お願い！フルーツポンチが食べたい！ (6F)	ご自分で願い事を書けないゲストはスタッフが代筆する予定であったが、ご自分で書かれる姿が見られた、みなさんの願いは、ご家族の健康や安全を祈っている方が多く、自分の事より家族の幸せを祈る姿が印象に残った。
8月	カジノに参加しよう (2F)	全員を対象に百人一首・ルーレットなどのゲームを行った。馴染みのある百人一首では、おてつき毎の笑顔や知っている歌を歌いながらの参加であり、懐かしさも感じながらの行事となった。
	たこやきパーティー (3F)	初めて食べると喜ばれるゲストもおられ、みんなで「おいしい」とそれぞれが口にしながら、たくさん召し上がられた。
	外出ツアー (ワールドビュッフェ) (4F)	普段、スルー食やミキサー食を召し上がっているゲストがたこやき、お寿司など小さめに切り分けるが、召し上がられ、普段は食べられない物を口にすることが出来た。
	納涼祭 (5F)	毎年の行事として行っている。ビンゴゲームとスイカ割りをおこなう、ビンゴゲームの景品は施設で用意、全員にあたるように企画する。スイカ割りには、男性2名の参加があり、なかなか割れず、大変な盛り上がりを見せた。ボランティアの方や子どものいるスタッフも一緒に参加し。大人数での納涼祭となった。
	頭がキーン！美味しい冷たいかき氷 (6F)	新入居の方もあり、美味しい冷たいかき氷と一緒に食べる事でコミュニケーションの良い場所となった。ターミナルの対応であるゲストも冷たいかき氷をもぐもぐと美味しそうに食べられた。

9月	おはぎ作り (2F)	作り方の説明から入り、みんなで作ることが出来た。和菓子をお好きなゲストは多く、普段あまり食べられないゲストも美味しそうに召し上がる姿が見られた。
	遠足 (須磨水族館) (3F)	希望者のみの参加で小人数となったが、イルカショーを少し興奮気味でご覧になられた。レストランでの食事も「美味しかった」と言って下さり、帰園後には「また、連れて行ってね」と笑顔がみられた。
	寿司パーティーと団子づくり (4F)	事前に何が食べたいか聞き取りを行い注文する。昼食にお寿司を食べ、皆さん、ほぼ完食。昼からは団子づくりを行い、買うのと違って、形も大きさも違うから楽しいねと1人のゲストのつぶやきが聞こえた。
	たこやきパーティー (5F)	たこやきにキャベツを入れてみてはというスタッフからの提案があり、「お好み焼にも似ている」と、大変好評であった。
	皆で体を動かそうワイワイ運動会 (6F)	普段からの体操やりハビリには積極的に参加されないゲストにも参加して頂く事が出来た。勝敗のかかったゲームでは真剣に取り組む姿が見られ、終了時は少し疲れた表情も伺えるが、「楽しかった、またしたいね、企画は大変だったでしょ、ありがとう」との言葉を頂いた。
10月	ハロウィンパーティー (2F)	スタッフ・ゲストともに仮装し、2チームに分かれ風船バレーをする運動も取り入れ、ハロウィンを楽しむ。かぼちゃのプリンも好評で、沢山の笑顔の写真を撮影することが出来た。
	木下大サーカスを見に行く (3F)	目の前にゾウやライオンが出てきたので、ゲストはとても興奮されていた。色々の演出を最後までご覧になり、少し長い時間でお疲れも見えたが、「また行きたい」との声が聞けた。
	森林植物園へ行く (4F)	昔、自分が植えた木が見たいとの希望を叶えるため、外出を企画、実行する。ご家族や植物園の方の協力もあり、ご本人には、満足頂けたが、帰園後は、植物園に行ったことを忘れておられた。一時的な満足でも感じていただくことが出来た事実は、スタッフのやりがいにもつながる外出であった。
	運動会 (5F)	チームメンバーは日頃の関りからスタッフが紅白に分ける。玉入れ、パンくい競争、飴さがしなど、楽しいゲームを企画し、競争する。お元気な方が多いフロアなので、パンくい競争など真剣な表情が見られ、負けたチームの方は本当に悔しそうな反面、怒っておられたのが印象に残った。
	外出の秋! ほうらく堂へでかけよう (6F)	今まで外出を好まなかったゲストが入居後初めて外出行事に参加された。食べ放題のおまんじゅうをたくさん召し上がり、お土産も買われている姿がみられた。
11月	お出かけホースランドパーク (2F)	紅葉を眺めながら散策し、レストランで食事を摂った。馬を見る事が珍しいのか、指をさして喜ばれる姿が印象的であった。
	ほうらく堂へ (3F)	ほうらく堂へまんじゅうやぜんざいの甘味を食べに行った。まんじゅうは、食べ放題で3個以上は食べられており、「もう、たべられへん」「太るわ」など笑いながら言われていた。
	ぜんざい作り (4F)	白玉作りをスタッフと一緒にいった。私に任せて下さいと言わんばかりの行動で、たくさん作って頂く事が出来た。ぜんざいは、美味しくできた様子でお代りされるゲストも多数おられた。

	神戸ワールドクックビュッフェへ行こう (5F)	普段、食事を残されるゲストが、ものすごい量を食べられていた。一人のゲストは希望により参加したが、食べるものがなく、殆ど召し上がる事が出来なかった事が反省として残る。
	色んなたこやき召し上がれ (6F)	長年、大阪に住まっていたゲストがこのイベントをととても楽しみにされていた。実際に作り始めると「久しぶりや〜子供が小さい時はよう焼いてたなあ〜」と思い出しながら、自然と笑みが溢れていた。他参加ゲストも想像以上に召しあがっておられた。
12月	クリスマス会 (全フロア)	各フロアでそれぞれ工夫を行い、演出、出し物、料理等を準備する。一人一つのクリスマスプレゼントは、高価なものではないが、それぞれ担当が選んだプレゼントを嬉しそうに開けていたのが印象に残る。着ぐるみや衣装を身に付け、演出にも各フロアのこだわりをみることが出来た。
1月	百寿を祝う会 (2F)	ご家族を招いて、レストランにてフロア全体でお祝い会を行う。ひ孫様が空手の型を披露し会場は盛り上がった。ゲストが主役ゲストに花束を渡すなど、全員が主役の様な良い雰囲気になった。
	福笑い (4F)	フロアで福笑いを行った、懐かしいと言われる声も多く、お正月を感じて頂く事が出来た、出来上がりの福笑いを見て、笑顔がたくさんこぼれた行事となった。
	外食ツアー (5F)	初詣を企画していたが、インフルエンザ流行の為、中止となり、下旬に外食ツアーを代替えで準備した。(西神オリエンタルホテルでの食事、お寿司官太) 施設閉鎖となっており、久しぶりの外出で外の空気を新鮮に感じておられた。
2月	豆まき鬼退治で無病息災祈願! (2F)	普段は静かに過ごされているゲストが力いっぱい新聞紙で作った豆を投げるなど、いつもとは違う表情で楽しそうに参加して頂く事が出来た。
	鍋パーティー (3F)	全ゲスト対象に鍋を囲みパーティーを行った。普段、食事の席を共にしないゲスト同士と一緒に食事をする事で盛り上がっていた。お鍋の評価も上々で、「たまにはこういうのもいいね」と笑顔で言われる。
	お好み焼きつくり (4F)	自分たちで作るお好み焼きを美味しいとお代りをされる方が多く、手際も昔、行っていた調理方法を思い出すようなしぐさも見られた行事となった。
	昼食バイキング (5F)	やきそば、お好み、エビフライ、串カツ、あんみつなど用意するが量が少なかった為、ゲストからは、「おいしかったよ、ありがとう」とお言葉を頂くが、満足感が少なく終了してしまったことが反省である。
	皆で鬼退治しよう運動会 (6F)	紙で作ったまめをスタッフに投げて楽しんでいたが、「本当の豆を投げたい、恵方巻きを丸かじりしたい」との意見があり、来年の課題とする。また運動会は2チームに分かれて行い、女性チームが圧倒的に優勢であったが、最後の最後に男女混合チームが逆転優勝するという結果で、大変、盛り上がった。
3月	お茶会 (2F)	食事量の少ないゲストが自らフォークを持たれ和菓子を食べられた。いつもの食事のグループと違ったお席に座り会話が弾む場面も見られた。
	道の駅に外出 (3F)	道の駅三木に出かけ、昼食を摂った。値段もお手頃で美味しいと好評であり、その後、道の駅で買い物をし帰園した。

苺大福つくり (4F)	生地から一緒に作る事で本格的に感じて頂くことが出来た。また、いちごを中に入れるのに苦労されている姿もみられる。
共進牧場へ行こう (5F)	ランチに小野の共進牧場へ出かける。ステーキかハンバーグをご自身で選んで頂き、「美味しかった」との声を頂く事が出来た、その後は、買い物班とゆっくり班に分かれ別行動し帰園した。新入居のゲストには、「初めてで疲れたけど楽しかった」と喜びの声を頂く事が出来た。
桜餅作り (6F)	一人2個作って食べる予定が、皆さん、大きく作りすぎ、召し上がるのは1個となった。大きく作りすぎた桜餅をみて笑顔がこぼれた。

8. 《会議の実施内容・反省点》

①チェリッシュ委員会 (毎月)

→毎月、体重測定を行い対応方法の見直しを行っている。ゲストの食事形態や好み、食事量について情報交換を行った。また、食事に関するイベント等の企画も行った。

②行事委員会

→毎月の行事、定期の行事、慰問等について調整、企画、実行を行う。感謝祭については、毎年、念入りの準備の結果、ご家族からも好評である。

③感染防止対策委員会 (毎月)

→毎月、開催し感染への注意喚起を行っている。今年度は、インフルエンザが年末から年始にかけて流行し施設閉鎖となった。3週間ほどで落ち着くも次年度は、見直したマニュアル通り、迅速な対応で終息できるよう万全の体制を整えておく。

④RM委員会 (毎月)

→ドキドキ報告書・事故報告書から読み取れるリスク、対策を施設全体で検討した。一つ一つの事故について検証しリスク軽減に努めた。

⑤マナーアップ委員会 (毎月)

→弥勒園と合同で、D-1 グランプリを企画・実行する。その他に整理整頓に力を入れ各部署を見回り確認していくことで美化に努めた。

⑥設備・災害委員会 (隔月)

→2ヶ月に1回の実施で、各階の設備関係の報告を中心とし、修理等の確認を行っている。建物も7年を超え修繕箇所が増えてきているため、細目に報告を行った。

災害に関しては、年間計画を元に訓練等の実施を行っており、夜間通報訓練は定期的実施している、BCP計画をより細かい3日間の動きをマニュアル化していける様にするため、次年度は、大慈園と協力し合える様な計画を策定する予定。

⑦入浴・排泄委員会 (偶数月)

→隔月にフロアの代表が集まり、マニュアルの見直しや物品、備品の管理、入浴の順番の調整を行い、スムーズなケアを提供した。

⑧サービス向上委員会 (毎月)

→今年度、立ち上げ、サービスを向上するにはどうしたら良いか、各部署のスタッフが集まり話し合う、言葉使いからご家族の対応、日常のケアについて話し合う。言葉使いについては、親しみがあつての声掛けであるが、聞く人によっては、不適切な言葉使いになるのではないかなど、マナー面から取り組んでいった。

⑨エコ・節約委員会 (不定期)

→施設全体で取り組めるコスト削減を話し合い、リースタオルの使用、リネンの使用について削減案を提案し、実施した。

⑩CCP委員会 (隔月)

→今年度もコミュニケーションを中心としたケアを実施した。認知症の進行によりコミュニケー

ションが取れなくなったゲストから、挨拶や笑顔を見せていただけるなど、わずかな変化ではあるが取り組みの効果が出ている。

①大慈な会議（毎月）

→施設長・副施設長・相談員・リーダー・サブリーダー・各部署代表が集まり、情報の交換・報告・連絡・相談を行った。

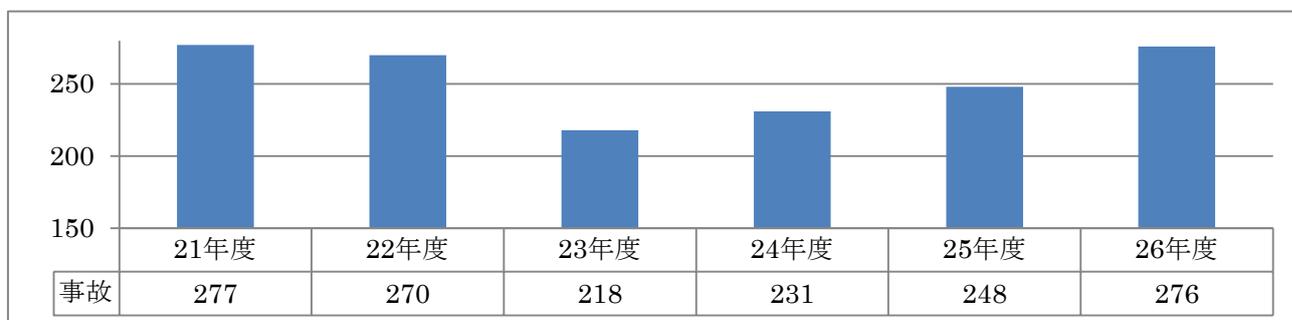
9. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

昨年度、ドキドキ報告書の件数が少なかったため年度初めより提出を促し増加を目標にしてきたが継続的に高い水準での提出はできていない。来年度は継続的に提出できるようシステムを構築する。

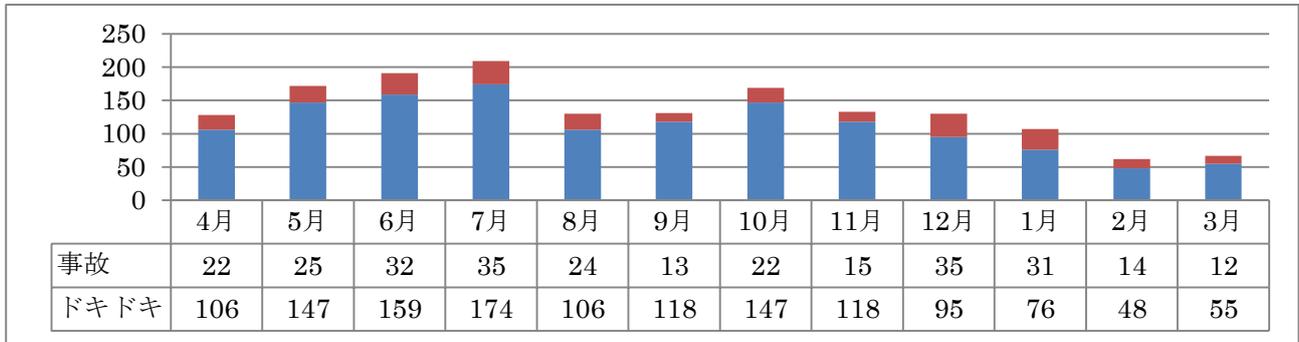
また、事故件数が前年度より増加した要因については、2F・3FゲストのADLの低下、精神面でご自身の状態を受け入れられないゲストが多くなったため、滑落件数が増加したと考えられる。



26年度				25年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1,629件	280件	1,349件		634件	248件	386件

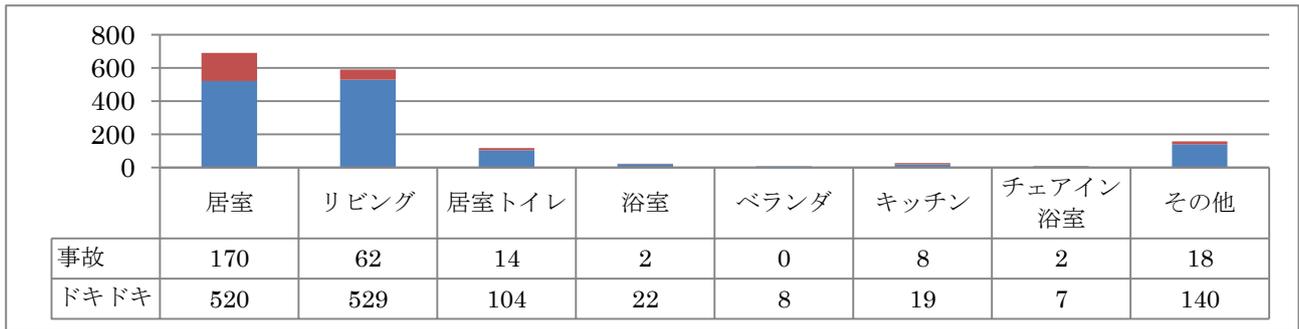
○内訳

平成26年度				平成25年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	239件	94件	142件	2F	96件	59件	37件
3F	204件	68件	136件	3F	109件	31件	78件
4F	164件	43件	121件	4F	173件	45件	128件
5F	357件	48件	309件	5F	73件	31件	42件
6F	666件	27件	639件	6F	183件	82件	101件



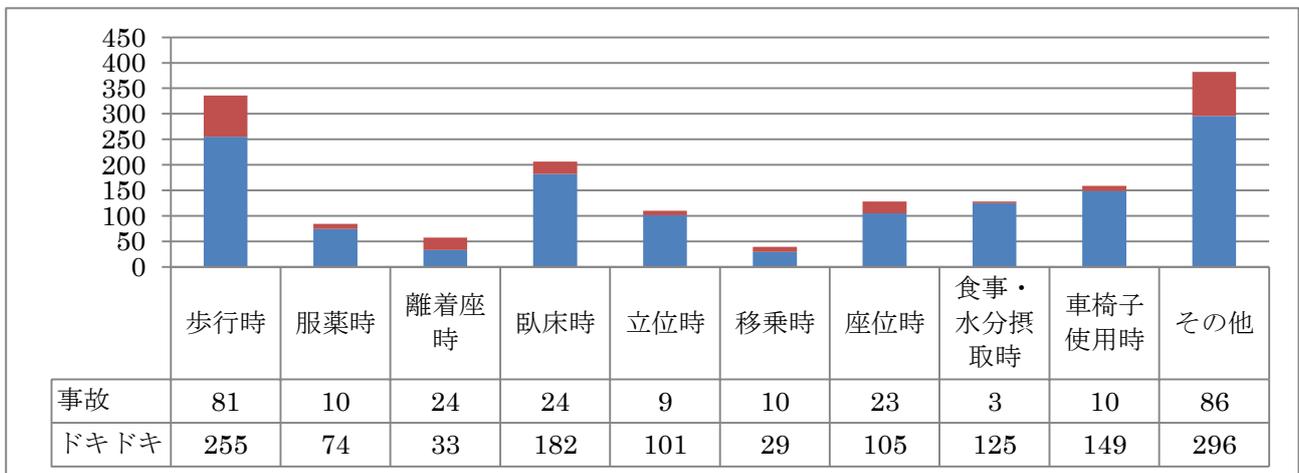
②発生場所別件数

居室、リビングでの事故が多くなっているのは前年度と変わりはない。居室での事故が最も多いのは、1日を通して居室で過ごされるゲストが多く、ケアハウスの特徴であると考えられる。



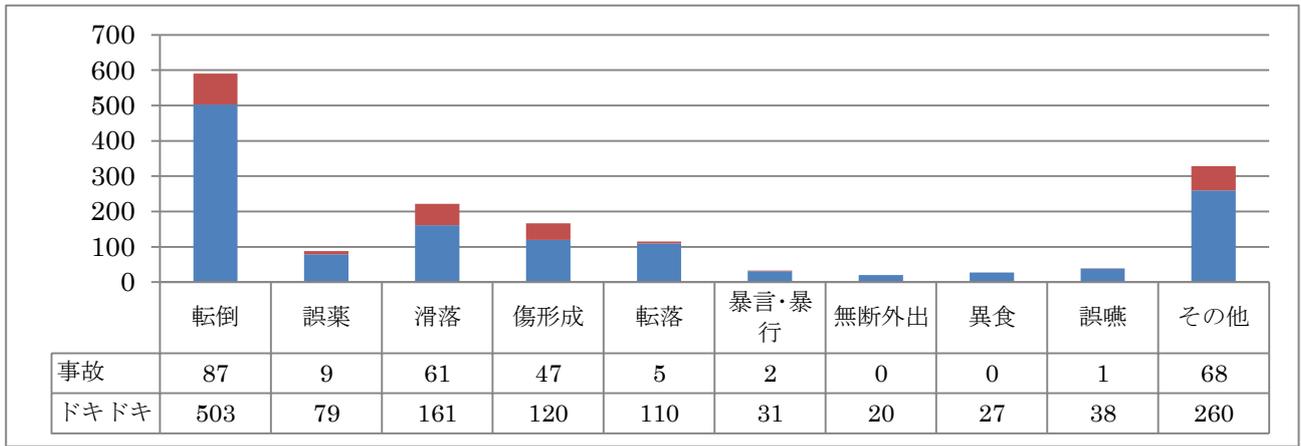
③発生状況別件数

前年度と比較すると服薬時の事故件数が減少。ドキドキ報告書の件数は増加した。これは、各フロアでドキドキ報告書の内容を検証し対策を実施した結果として表れている。



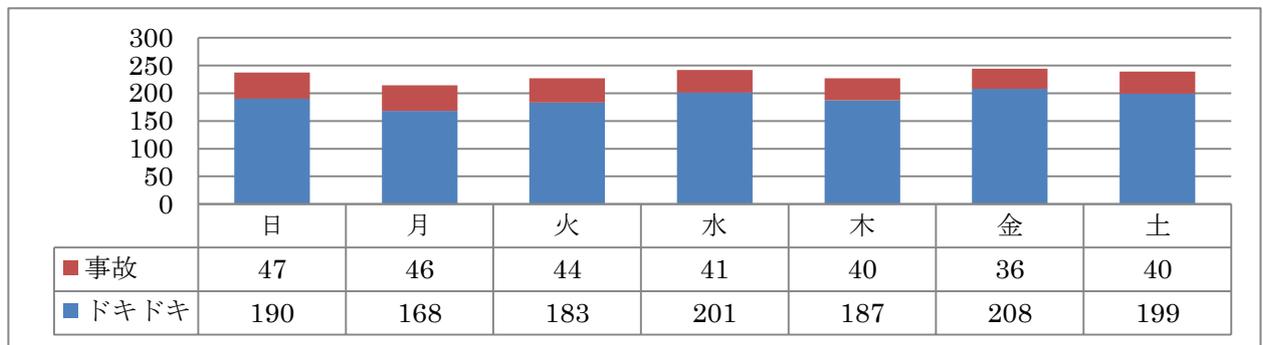
④発生内容別件数

発生状況別にも記載したが前年度と比較すると誤薬事故が半数以下に減少した。転倒事故においては前年度と同じく群を抜いて多くなっているがドキドキ報告書は増えている。滑落事故の内容としてはベッドからの滑落が最も多い。



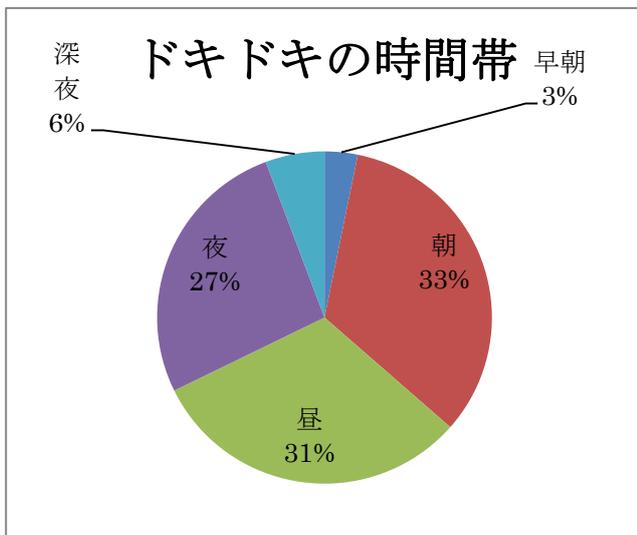
⑤曜日別件数

曜日別に見ても大きな差はなく、曜日による業務の違いはそれほどない為と考える。

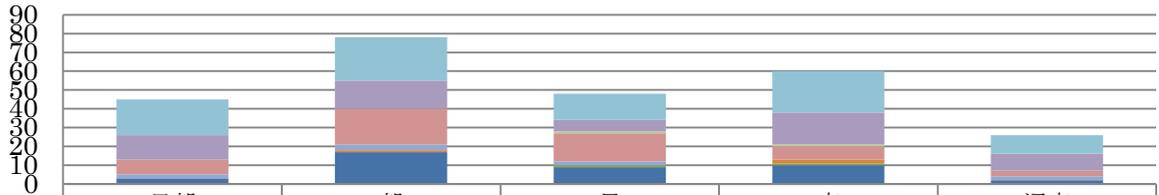


⑥時間帯別件数

事故報告書、ドキドキ報告書、共に朝の時間帯(7:00~11:59)が最も多くなっている。これはゲストの活動開始時間であること、スタッフが早出、日勤者のみであること、また、夜の時間帯に関しても夜勤者、遅出のみであることからスタッフの出勤時間も関係しており同じ要因であると考えられる。(昼の時間が業務に入っているスタッフが朝・夕に比べ平均2名多い配置となっている)



事故の時間帯別内訳



	早朝	朝	昼	夜	深夜
■ 転倒	19	23	14	22	10
■ 滑落	13	15	6	17	9
■ 誤薬	0	0	1	1	0
■ 傷形成	8	19	15	7	3
■ 転落	2	3	2	0	2
■ 暴言・暴行	0	1	0	2	0
■ 無断外出	0	0	0	0	0
■ 異食	0	0	0	0	0
■ 誤嚥	0	0	1	1	0
■ 不潔行為	0	0	0	0	0
■ その他	3	17	9	10	2

⑦まとめ

今年度はドキドキ報告書の件数増加、各フロアでの事故検討実施を目標としていたが、継続的なドキドキ報告書の件数増加はできず。

フロアでの事故検討は SHELL モデルを用い、2月の OJT でフロア毎に発表を行った。来年度は引き続きドキドキ報告書の件数増加に努め事故件数が減少に向かうように進めていくこととする。

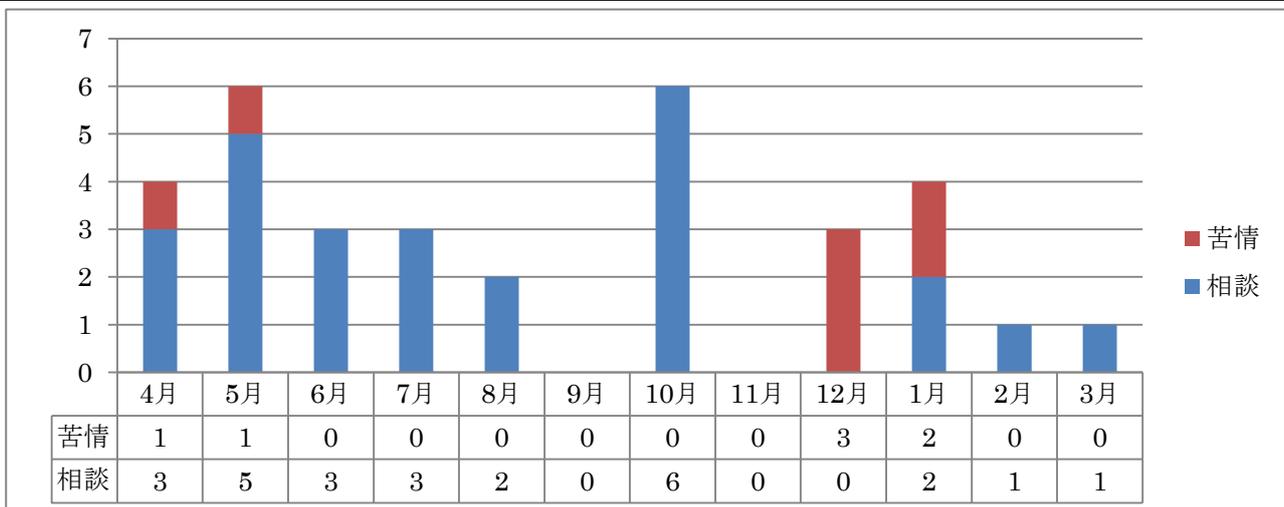
10・《苦情・相談結果報告》

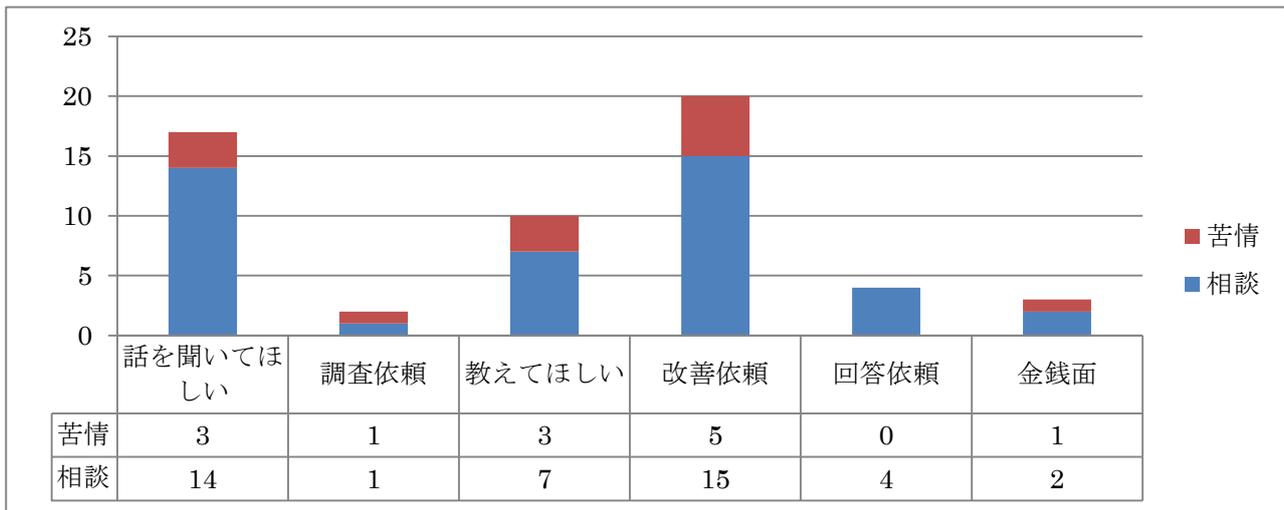
《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	26年度			25年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	33件	7件	26件		42件	4件	38件





○主な内容

スタッフとご家族の間のコミュニケーション不足、ゲストとスタッフの認識不足の違い、またゲスト間のトラブルなどさまざまであるが、昨年と同様な内容である。問題が大きくなったケースに関しては、入居時の印象や対応がそのまま引きずり、最後まで良好な関係が築けなかったなど。

○まとめ

第一印象の大切さ、挨拶の大切さを伝えていく、また、報告・連絡・相談をきちんとしていく事で、ご家族からの信頼を得る事、苦情に繋がらないこと、苦情になっても日頃からの関係により、相談で済むことが多い事を全スタッフに伝えていく。今後も各フロアで出た苦情から相談までを共有する事で、同じ失敗がないように努め、サービス向上の為、施設全体で取り組んでいく。

1 1 ・総括

考える介護・考えられる人材を育成する為に、サービス向上委員会を設立し、マニュアルの見直し、内部・外部の研修に参加、マナー向上、介護技術向上するためには、どのように取り組んだらいいのか話し合っていた。中でも一人一人のサポートの内容を見直し、同じレベルで同じサポートが行えているのか確認したところ、出来ていない事がわかり、その部分の見直しから始めて行った。サービスの質の向上は終わりのない目標を立て実行していく事であると感じるが、現状でベストなサービスが提供できるよう、施設全体で今後も取り組みが必要と考える。またその中からスタッフがやりがいを伝えていける様、ベテランスタッフがリーダーとなり、指導していく事を次年度も引き続き、目標とする。在籍率については、達成することが出来るが、在園率については92%と未達成に終わる。空所の期間があった事と入院者の退院が長引いたことが原因と考えられる。

今後は、入院期間が短くなるよう早めの受診で体調管理を行っていく事と、空所になる前に事業者と連絡を取り、空き部屋の情報を提供しスムーズな入居につながるよう取り組んでいく。最終目標である《みんなが生き生き、のびのび、笑顔で過ごせる、終の棲家》であられるよう、収入を確保しながらも質の高いケアハウス大慈独自のサービスが提供できるよう、スタッフ全員で取り組んでいきたい。